



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成30年 1月 9日

校長 福田 俊彦

『やすらぎ』と『ときめき』

校長 福田 俊彦

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては穏やかな新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。子供たちを校門で迎える3学期初日、「子供たちは、どのような思いで新年を迎えたのだろうか。どのような今年の夢や希望を抱いたのだろうか。」と問いを巡らせていました。平成30年も、一人ひとりの子供が、自分の夢や希望に向かって、一步一步着実に進めるよう尽力をしていきます。本年も、南町小学校の子供を「みんなの子供」として見守っていただけますようお願いをいたします。

さて、健全で満足度が高い人生を創るために必要なものは何でしょうか。ある方の話を読む機会に出会った時の内容です。その方は、「やすらぎ」と「ときめき」という言葉をあげていました。「やすらぎ」と「ときめき」か、そうかもしれないと思いつつ今の自分にとっての「やすらぎ」と「ときめき」を考えました。

「やすらぎ」は、休みの日に好きな場所で好きなことをしつつ仲間と時を過ごす。そして時間に追われなければ、きっとやすらぎを感じているだろう。「ときめき」は、魅力を感じ、達成感を味わえそうなことを明確にもち、そのことに向かって進んでいく時の心持ちのように思います。わくわくドキドキという言葉で新入生を迎える入学式の式辞で使うことがありますが、きっと期待と不安が混ざり合っている状況かとも考えます。この二つの言葉をあげられた方は、それぞれの言葉をもたらすものとして、友達や家族、社会とのつながりと夢や希望をバランスよくもつことと話しています。

人は、人とのつながりの中で、喜怒哀楽を経験します。社会の中でうまくいくこともうまくいかないことも経験します。家族の中での葛藤もあります。感謝も、大切に思う気持ちもあります。心地よい時の心情は、心地よくない時を経ているからこそやすらぎを強く感じるのでしょうか。心地よいことばかりでは、やすらぎを体感することはできないかもしれません。

夢や希望をもつことから「ときめき」が生まれます。一人ひとりが自分の人生を歩む今、自分が向かうところを明確にもち、どのように進んでいくか分かっていることは、日々の生活を充実させ、ときめきを感じる場となるでしょう。日々の中で何となく時間を費やしていくこととは大きな違いがあるはずです。

子供たちはこの社会で、学校で「やすらぎ」と「ときめき」をもたらすものに深く関わっています。この3学期、どのような学級にしていくのか、どのような生活を創っていくのか、そして、新たな学年、学校に向けた準備をどのようにしていくのか等の目標や夢をもちます。目標や夢に向かう過程では、家族との関わり、地域や学校という社会との関わり、生活を共に創る仲間との関わり等があります。ひとつひとつの場面が、一人ひとりの健全で満足度の高い時間をもつことができます。

子供がこの南町小学校で、「やすらぎ」と「ときめき」をバランスよくもち、自分の歩みを創っていきけるよう尽力をしてまいります。